

福田寺だより

発行 55

神奈川県小田原市飯田岡二五七
飯田山 福田 田 土寸 (36) 27
住職 橋本尚信

一年間を少自みて

死の直前まで歩きつづける

同年輩の人との会話で「年をとるにつれて一年間が短く感じるな」ということをよく耳にする。私としてもこの言葉は実感である。では、今後もずっとこのテンポで加速度的に早くなっていくのかと思うと、精神的にあせりを生じてしまうので、「もう少し年をとれば、又ゆっくりとした歩調に感じるだろう」と自身に言い聞かせて、あせる気持ちをしのをいである。しかし、このような小手先だけの方法でなく、もっと

積極的な方法として、「死の直前まで歩き続けた人々」の生涯を知ることにより、勇気と力を得ることができ、時間の経過を超越できるのではないかと思う。

「死の直前まで歩き続けた人」の代表は、仏教の開祖―釈尊―である釈尊（紀元前四六三―三八三）は29才で出家、35才で悟りを開き心の大きな転換をし、それから80才で亡くなるまで伝道の生涯を送っている。亡くなる直前まで伝道の旅をしてい

るのである。「死の直前まで歩き続けた人」には、他に弘法大師空海、最澄、日蓮、道元、栄濟、法然、親鸞、といった各祖師をはじめ、政治の世界で活躍した人や、文化・芸能面で活躍した人など大勢おられます。死の直前まで歩き続けるというのは少年とか、中年とか、老年といった年齢に関係なく、常に今、現在の自分を最大限に生かしている人のことだと思えます。

「もう年だから・・・」「こんな状態だから・・・」と消極的になったり思い悩むのは自分自身です。釈尊が80才で死を迎える直前まで歩き続けたように、私達も前を向いて歩き続けようではありませんか。そうすればもう私の口から、「もう年だから・・・」という言葉は出てこないはずですよ。そして一年間の過ぎ行く早さも怖くなくなるのではないでしょう。か。

集

特

本堂新築工事進行

基礎工事着手

地鎮祭執行

本堂新築工事も基礎工事を迎える段階に至り、これに先立ち、去る11月9日(日)午後2時より地鎮祭を執り行いました。

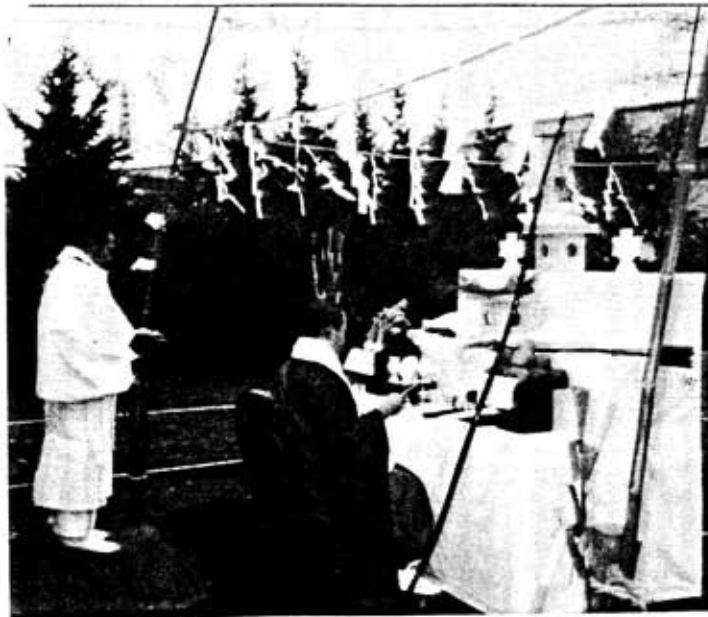
あまり大仰にはしませんでしたが本堂という特殊な建物を建てるので、地鎮法というのは、本来堂塔伽藍を建立する時に修する法であることからして、できるだけ本儀に則って執行するよう心掛けました。そのためにも、この道では第一人者の、満福寺・藤原住職に一切を取り仕切っていただき、滞りなく終了することができました。

当日午後2時、出席者全員(住職・満福寺住職・世話人6名・業者関係4名・寺族7名・他2名)現本堂にて御法楽をささげた後、螺吹の先導にて現場の祭壇前に整列、式次第の通り進行しました。

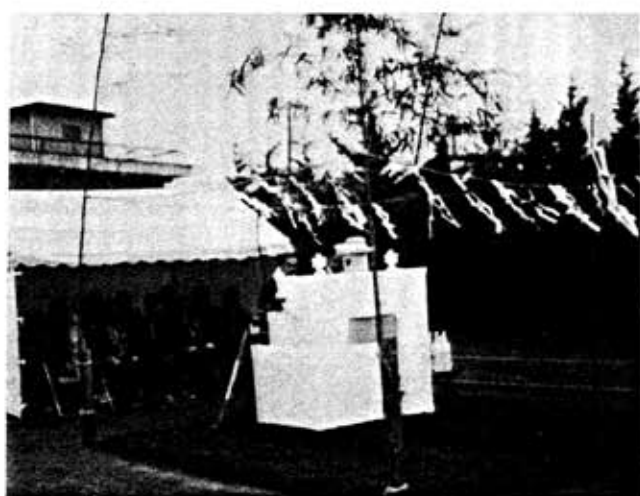
先ず藤原師の法螺一声に始まり、導師(住職)による五宝その他鎮壇具の納め、啓白文奉読、藤原師による宝弓、そして鍬入れの儀では、住職、大黒、三浦氏、服部氏、西方氏総代が、順次鍬を入れて、すべての次第が順調に進み無事に終了することができました。

式終了後、本堂にてオードブルと御神酒にて、無魔工事完了すること祈って乾杯をし、しばらくなごや

かに歓談をして、解散致しました。当日は、朝から曇天で今にも雨が降りだしそうな天候でしたが、式が終わって一行が本堂に戻ると同時に降り出し、まさに式が終了するのを待っていてくれたかのようにした。これも、皆様がたの気持ちのあらわれと感謝致しております。



* * * * *
 * 銅板寄進のお勧め * * * * *
 * 本堂建設に当たり、広く有縁 * * * * *
 * の皆様に銅板の寄進をお勧め致 * * * * *
 * しております。銅板には住職が * * * * *
 * 願いごとと名前を書き、祈念を * * * * *
 * して屋根に葺きます。一枚二千 * * * * *
 * 円です。寺に申し込み下さい。 * * * * *



地鎮祭を終えるや、早速11月10日より基礎工事が始まりました。基礎工事は、大磯の西方土建が担当してくれております。西方土建は、二宮の等覚院の基礎も施工した業者で、三浦棟梁が見込まれた人だけあり、とても丁寧な仕事をされる方です。11月10・11日とパイル打ちをし、ランマーを使っての地固めの後、現在内側の基礎部分が出来上がったところですが、完璧にしかもとても綺麗に仕上がっております。引き続き外側の基礎の作業が進行中ですので、都合のつく方はご覧になって下さい。尚、基礎には3メートルのパイル一六本を打ち込む方法で行いました。又、生コンは山崎商事より、上質の材料を入れて頂いております。

基礎工事が始まる

基礎工事が始まり、裏には駐車が出来なくなりましたが、しばらくの間不自由をかけますが、庭の空いている場所を利用してください。ご協力をお願いいたします。



詩

バスのなかで

この地球は

一万年後

どうなるかわからない

いや明日

どうなるかわからない

そのような思いで

こみあうバスに乗っていると

一人の少女が

きれいな花を

自分よりも大事そうに

高々とさしあげて

乗り込んできた

その時

わたしは思った

あゝ

これでよいのだ

たとい明日

この地球がどうなろうと

このような愛こそ

人の世の美しさなのだ

たとえ核戦争で

この地球が破壊されようと

そのぎりぎりの時まで

こうした愛を

失わずに行こうと

涙ぐましいまで

清められるものを感じた

いい匂いを放つ

まっ白い花であった

坂村真民詩集

「朴」

より

行事予定

暮れのお参り

一年の終わりです。今年はどうな
年であったかご先祖に報告し、又
無事過ごすことの出来た感謝を、

ご本尊様に表すつもりでお参りい

ただいております。

あまり良い年でなかった方は、今

年の厄を払うつもりで、そして来

年こそ素晴らしい年であるよう祈

念してください。

元旦祈願

元旦祈願

午前0時より1時まで

毎年、住職一人で勤行がなされて

います。本堂を開けておきますの

で自由に初詣ください。

お守り・お札の処分

古いお守りやお札など、自分で処

分しにくいものは、12月27日までに

寺の所定の場所に置いて下さい。お

きあげします。(燃える物のみ)